

妙高山・火打山 (中頸・妙高村)

■環境：高山、高原
 ■対象：健脚
 ■期間：6月中旬～8月中旬

妙高山塊といわれるこの一帯には、ブナ林・ダケカンバ林・オオシラビソ林・ハイマツ林・風衝草原など、植生の多様さに伴って多くの鳥が生息している。特に火打山のライチョウとアマツバメ、高山にすむカヤクグリ・ルリビタキ、オオシラビソ林にすむコマドリ・キクイタダキ、また全般にクロジが多いことなどが特徴である。

妙高山・火打山への登山コースは幾つかあるが、探鳥を目的に登るなら次のコースをすすめたい。

①笹ヶ峰～十二曲り～オオシラビソ林～富士見平～高谷池ヒュッテ (泊)。翌早朝火打山へ登って笹ヶ峰へ下るゆっくりコース。健脚なら日帰りで笹ヶ峰まで下山できる。なお前日に笹ヶ峰周辺を探鳥して笹ヶ峰で一泊し、翌朝早く火打山へ出発するのもよい。

[主な出現鳥] 登山道に入ってブナ林の中を行くと、ミソサザイ、コルリ (時期が遅いとさえざらない)、キビタキ、コガラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、クロ

ジなどよい声でさえざっており、登るにつれてビンズイ、コマドリ、ルリビタキ、メボソムシクイ、サメビタキ、キクイタダキなど夏の歌手の美声が聞かれる。富士見平付近でホシガラスも出現する。火打山頂近くの「鬼ヶ城」の切り立ったがけにはアマツバメが営巣し

ており、7月半ばころまで盛んに入りしている。運がよければハイマツ林から上でライチョウにも出会える。

②燕温泉～天狗堂～妙高山頂～長助池～燕温泉 (妙高山の表から裏を回る)。

[主な出現鳥] ホトトギス科4種の声が聞かれ、ミソサザイ、ビンズイ、オオルリ、クロジ、ウソ、カケスなどに会う。ルリビタキやメボソムシクイは裏側に多い。イワヒバリは頂上付近に、カヤクグリは頂上付近か裏側に、また裏側を下りたダケカンバ林でコマドリのさえざりが聞かれることがある。



火打山 (右) と焼山



③燕温泉～天狗堂～妙高山頂～黒沢分岐点～黒沢ヒュッテ～高谷池 (ヒュッテ泊)。翌日火打山へ登って笹ヶ峰へ下る。健脚なら火打山に登らずに黒沢ヒュッテ～富士見平～笹ヶ峰のコースもとれる。笹ヶ峰から逆のコースもよい。

[主な出現鳥] 特筆すべき鳥は出現しないが、黒沢から高谷池への途中茶臼山付近でルリビタキ、カヤクグリ、ホシガラスなどに会える。

(山本 明)

メモ

交通 JR妙高高原駅より笹ヶ峰と燕温泉へバスが出ている。問い合わせ先：川中島バス妙高営業所。☎0255-86-3171
 ㊦ 笹ヶ峰の国民休暇村 (バス終点、火打山登山口近く) と燕温泉入り口手前に駐車場がある。
道草 黒沢池・高谷池～天狗の庭～火打山頂には高山植物が豊富で7～8月にはそれらの花も楽しめる。ただし特別保護地区のため採集は禁止。
みやげ 妙高高原駅前販売されている「あんもち」と「さざずし」は好評。ただし翌日になると固くなるので、買った当日食べることを。